

〈要約〉

プロフェッショナルのための鉄道科学通信教育の 活用に関する考察

A study on development of distance learning in railway science for front-line professionals

藤原浩史
Hiroshi Fujihara

前橋栄一
Eiichi Maebashi

企業において人材の育成・訓練は組織の根幹をなす。特に高度な安全性を要求される鉄道事業及び鉄道関連事業においては、現場第一線に携わる職業人（プロフェッショナル）を対象とした教育は最重要項目の一つであると言える。

しかし、多くの鉄道事業者では、昨今の経営的環境の変化により、自社内での教育に配分可能なリソースも限定されており、特に理論面の教育に関しては体系立てて実施することが厳しい状況にあると言える。通常、鉄道に関する理論というと多くの既存の基礎的学術分野の立場から鉄道を研究対象の一つとすることが多く見受けられるが、鉄道のプロフェッショナルにとっては、鉄道という対象側の観点から、学際的・分野融合的に論ずるという鉄道科学（railway science）的な観点からの知見の修得が重要である。

本報告では、まず国鉄で行われていた通信教育制度の取り組みをレビューし、今日の鉄道の現場で活躍するプロフェッショナルを対象とした鉄道科学教育の仕組みとして新たな通信教育システムを提案する。新たな通信教育システムの実施内容や運営機関としてはどのようなものが考えられるか、その実施により関係する主体にどのようなメリットがあるのかなどについて考察する。また、経済循環の観点からも考察し、鉄道業界内で閉じたフローを示す。最後に、他分野との比較として、看護分野のプロフェッショナルを対象とした通信教育制度の現状との比較検討を行い、鉄道分野での適用にあたっての考察を加える。